

フィンテックで変わる 「決済・送金」 の未来



おかげさまで、近代セールス社は、今年9月1日をもちまして創立60周年を迎えます。そこで、今号から創立60周年記念企画をお届けしていきます。今回は、その第1弾として『フィンテックで変わる「決済・送金」の未来』をテーマに、いまだんな新サービスが打ち出されているのかNTTデータ経営研究所にインタビューするとともに、新しい決済システムとして「Coiney」と「後払い.com」をレポートします。

NTTデータ経営研究所に聞く!

フィンテックを踏まえた 「決済・送金」の新サービス



決 決済や送金について、まずはいまだんな動きが出てきているのか、将来、どう変わるのか

——。フィンテックに関する識者で、『決定版FinTech—金融革命の全貌』（東洋経済新報社刊）の著者でもある、NTTデータ経営研究所金融戦略コンサルティング部門金融政策コンサルティングユニットの加藤洋輝シニアマネジャーと桜井駿シニアコンサルタントにお話を伺った（以下、敬称略）。

● お二人は、フィンテックに関して様々なレポートを公表されたり、書籍を発行されたりしています。まずフィンテックとは何かを

教えてください。

加藤 フィンテックとは、ご存じのとおり金融を表す「ファイナンス」と、技術の「テクノロジー」を合わせた造語ですが、明確な定義があるわけではありません。ただ、次の2つがフィンテックであると考えられると、読者の方も整理しやすいのではないのでしょうか。

1つは、金融やお金に関するサービスを提供する企業自体をフィンテックと呼ぶケースです。この場合、金融業界向けのITベンダーや、新サービスを提供するベンチャー企業・スタートアップ企業がフィンテックとなるのです。

もう1つは、ITを使った新しい金融サービスのことです。例えば銀行がベンチャー企業と手を組んで画期的な金融サービスを提供することがありますが、このサービス自体をフィンテックと呼ぶわけです。

● 簡単・安価に決済できるサービスが関心を集める

——いまフィンテックにより新し

い金融サービスが次々登場していますが、まず「決済」についてはどんな手段が出てきていますか。

加藤 「①お金を払う人（商品の購入者）向けのサービス」と「②お金を受け取る側（小売店舗等）向けのサービス」に分けて紹介しましょう。

まず「①お金を払う人（商品の購入者）向けのサービス」としては、簡単・安全・安心をキーワードに、新しいサービスが登場してきました。

例えばスマートフォンをかざせば支払いが行える「モバイル決済」（＝簡単）や、指紋・顔認証による決済、さらには1つの端末では決済が完了せず別の端末でも完了ボタンを押さないといけない「2経路決済」（＝安全・安心）などが、フィンテックによる新しい動きといえるでしょう。

一方の「②お金を受け取る側（小売店舗等）向けのサービス」ですが、最近ではスマートフォンにカード読取機を付けることで簡単にクレジットカード決済ができる